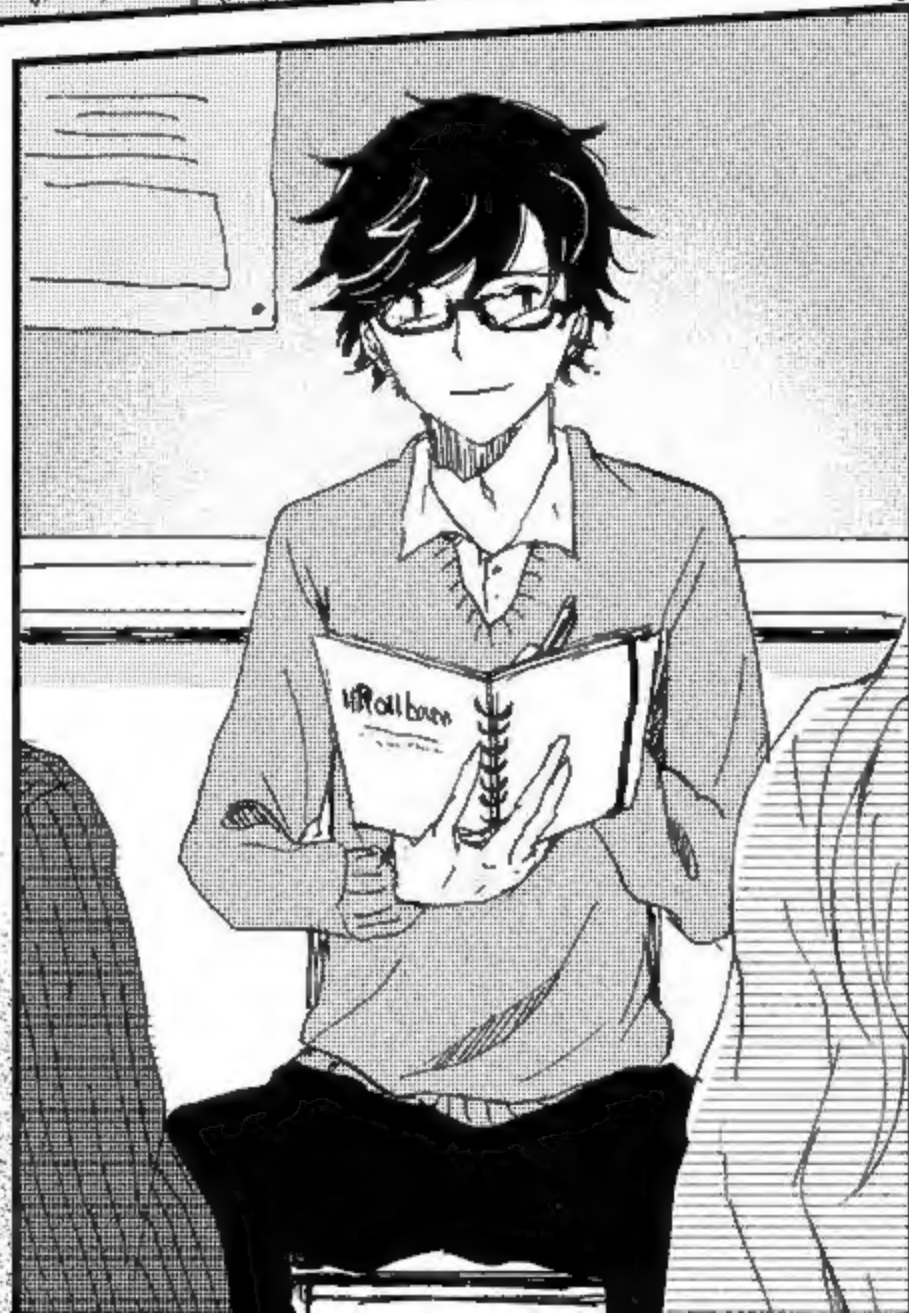
第4回THE GATE
編集部賞受賞作
日本と同程度の国土に
人口は東京の約4割
北欧の雪が包む、少女と青年、成長の物語――。
アビの日
A b i p ä i v ä
独立からまだ100年に満たずして
世界学力ランキングトップクラス
世界幸福度ランキングでも常にトップ10に入る
★この漫画はフィクションです。実在の人物、団体名等とは関係ありません。
ついでに国民一人あたりのコーヒーの消費量も世界1位

キートス（ありがとう）
キートス
どちらから
第4回THE GATE編集部賞受賞作!!
僕 秋山陸は このフィンランドに 交換留学して 2年目の
オウル大学 教育学部の 大学生
その「一日」が、僕の人生に光を照らす。
あっちか
アビの日
Abi päivä
小森江莉

そして大学にしつこく頼み込んだ甲斐あって
北極圏の入り口ロヴァニエミにある公立高校にて
今日から念願の見学実習だ！
校長のハンナです
よろしくおねがいします
君のことは彼女に任せてあります
ライヤ・トルッキです
リク…だったわね
どうぞよろしくね
はい！
正直すごくドキドキしてたけど
いい人そうでよかった！

フィンランド語が
とても
上手なのね
いえ
そんな…
僕なんて
まだ語彙も
少なくて…
あらら
緊張
してるの？
いいのよ
もっと気を
楽にして
ううっ
優しい…！
ぱあっ
それに何て
素敵な顔で
笑うんだろう
ここの
生徒は
約５００人
知ってるかも
しれないけど
授業はすべて
単位制で
在籍する
年数も
自由です
2年で卒業までの
単位をとり終えて
進学する子も
いれば
私生活の
習い事と
両立させたり
より専門的に
学びたいなど
さまざまな理由で
3年 3年半
4年とかけて
単位をとる
子もいます
大学の講義で
聞きました
分からない
ことを
分からない
ままにせず
自分のペースで
勉強を進める
方針ですね
そうよ

フィンランドは
「一人の100歩よりも
100人の一歩」を
目指す国――

社会全体が
競争を排除して
一人一人の
深い理解と
自主性を
最も大切にする
教室に
決まった
席はなく
自由に
友達の
ところへ
移動して
分からない
子には
分かる子が
教え
双方が
理解を
深め合う
そんなふうに
一人の問題を
みんなで解決する
という姿が
自然に見られる
僕はこんな…
まさに
こんな教室に
憧れていたんだ

ゴロゴ
せっかくここまで来たんだ
何か掴んで帰らないと…

…あれ？
あの子…
黒い瞳と黒い髪…？
素晴らしい授業でした!!

僕の思う理想の教室そのものでしたよ！
ふふありがとう
ライヤ〜！
ハァイ
生徒に名前で呼ばれているんですか？
そうよ
フィンランドで苗字で呼ばれるのは生徒に慕われてない証拠なのよ
ラ
ライヤ…
あなたもライヤって呼んでくれたらうれしいわ
えっ！
ハァイ！
いい人〜!!

あれは…何かイベントがあるんですか？
いたるところに飾り付けのようなものが…
ああ…3週間後に「アビの日」なの
「アビの日」？
その年の卒業生を「アビ」と呼ぶのだけど
彼ら…アビたちが学校をジャックするの
長い学生生活のストレスを
学校という監獄へぶつけて晴らすのよ
校舎を飾り付けて授業中の教室に乗り込んで
在校生にキャンディーを撒いたり顔に落書きをしたり…
ちょうどあなたも見られるわね！
監獄か…
日本人の僕から見れば随分自由なんだけどな…
先生たちは怒らないいんですか？
まさか！
それどころか私はとても楽しみなのよ！

特に
この学校では
毎年アビたちが
北方の少数民族
サーミ民族の
色鮮やかな
民族衣装を
着るのが伝統なの
初めて見たときは
とても感動したわ！
私はもともと
南部の出身
だから
実はこの学校は
まだ3年目
なんだけど
民族衣装を着て
楽しそうに
学校からの
解放を祝う
生徒を見るたびに
彼らの成長を
感じられて…

ごあいさつ

大好きなフィンランドの漫画で賞をいただけて嬉しいです。ありがとうございます!!
より幅広く、面白い漫画を描けるよう頑張ります。

小森江莉

ヘイ（こんにちは）

君も留学生？
突然ごめんね
黒い髪をしていたから気になって
僕はリク日本人だよ
……
…留学生じゃないわ
私はキーラ
サーミ民族…
北方でトナカイの遊牧をする民族なんだけど
サーミの中には少ないけれどモンゴロイド系の人もいるの
私はそれよ生まれたときからフィンランド人
あれ…そっか勘違いだ…
ごめんね
…いいのよ

サーミって…

！

アビの日に着る
民族衣装の？

…そうよ

やっぱり！

僕も見るのを
とても楽しみに
しているんだ！

色鮮やかで
素晴らしい
衣装だと
聞いてるよ

伝統的な衣装が
こんなふうに
愛されるなんて
素晴らしい
ことだね！

……

13

ガタッ!!

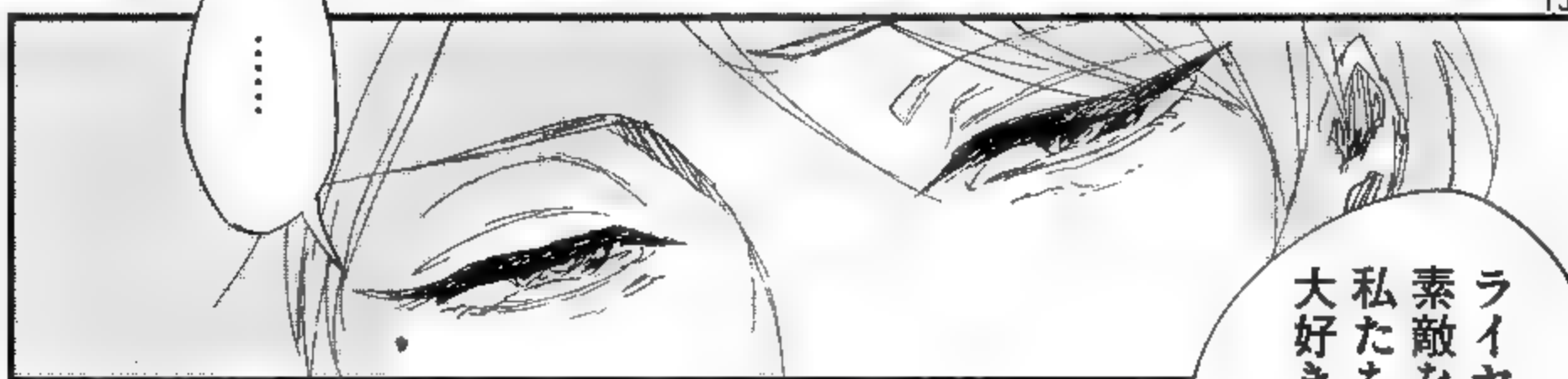
次の教室
遠いから
先に行くね

ああ…
うん

……

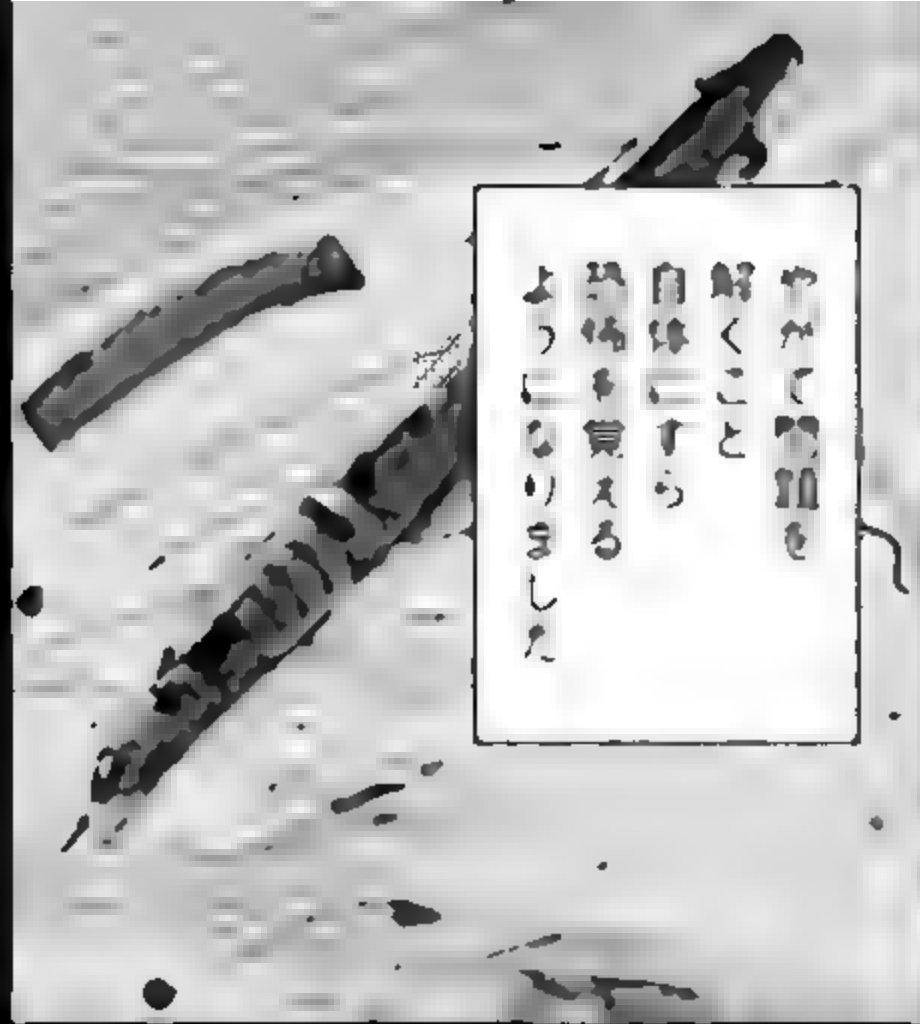
ぼ…
僕なにか…
悪いこと
言ったかな…？
……
これは
私たちも直接
聞いたわけじゃ
ないけど…
サーミ民族の
人たちは
アビの日に
自分たちの
民族衣装が
使われることを
あまり よく
思っていない
らしいのよ
サーミにとって
あの衣装は
婚礼や儀式の
ときに着る
とても神聖なもの
だそうよ
アビの日は決して
上品な行事とは
言えないし…
きっとキーラも
民族衣装が
こういう
使われ方を
するのは
あまり嬉しく
ないんじゃ
ないかしら…

相談してくれれば私たちも何かできるけど
けど…彼女の担任はライヤでね……
あっ…！
……
ライヤは素敵な先生で私たちはライヤが大好きよ
そして彼女は衣装を着る私たちの姿をとても楽しみにしている
キーラもライヤの想いを知っているから複雑な気持ちなのよ
あなたが何か失礼なことをしたわけじゃないわ
あ…うん
リク！
午後の授業が始まるわ
いきましょう

職員室
どうしてリクはフィンランドに興味を持ったんだい？

えっ!?
えと…日本でいろいろありまして…
そのいろいろが知りたいんじゃない！
どうしてはるばるこの国まで来たの？
……
なんと言えばいいか
その…
僕の親はとても教育熱心な人で
子供の頃から家庭教師をつけられて
家でも学校でも毎日勉強していて
…それだけならよかったんですけど…

母は僕が成績を落としたり
他の子に負けたりするたびに
僕を厳しく罰する人だったんです
食事を抜いたり叩いたり…

僕の足や腕を
掴んで
身体をライターで焼いたり……
……
そ…
それは虐待なんじゃ…
今思えばそうですけど
当時の僕では分からなくて
小さな傷しか残らないので人にもバレず
僕もそれが当たり前だと思ってたんです
高校生になるとさすがにそれはなくなりました
けど…とても厳しい進学校だったので
毎日成績の競い合いで
1位
2位 秋山 陸
3位 大塚 理
中村 美
順位を落とせばやはり厳しく罰せられて…

学校では
教師に
家では
家庭教師と
母に
人に負ければ
お前の人生は
破滅すると
毎日聞かされて
そのうち僕は
問題を
間違えることを
異常に怖がる
ようになり

やがて問題を
解くこと
自体にすら
恐怖を覚える
ようになりました
大学受験の日
問題の冊子を見て
身体の震えが
止まらなかった
この問題を
間違えれば
僕の人生は
破滅して
家にも
社会にも
居場所が
なくなる

結局
僕は
試験の時間中

ずっとトイレで
吐き続けて
しまったんです

志望校には
すべて落ちて

それほど
ランクの高くない
大学の教育学部に
入りましたが

母は僕に
失望して

僕を
産んだことを
なかったことに
しようとした

けど
そのおかげで
実家を離れて

一人暮らしを
はじめることが
できて…

正直
助かったと
感じました

そして
やっと一人で
落ち着いて
暮らせるように
なれた頃

ある本で偶然
この国のことを
知ったんです

一人の100歩より1000人の一歩
競争をせず自分のペースで
学びたいことを学びたいだけ学ぶ
間違えても叱りも失望もせず
分かるまで待ってくれる友達や先生がいる
それは理解も想像もできない未知の世界で
僕はそんな場所が存在することを認めたくなかった
だから実際に見てやろうと思ったんです
というより見せてみろって感覚だったかもしれません

幸い
オウル大学は
僕の学校の
交換留学を
受け入れて
いましたしね

…とても
そんなふうに
見えなかったわ

あなたはいつも
嬉しそうに
私の授業を
見ていたから…

嬉しかったん
ですよ！

実際
ここはとても
素晴らしい
環境で

あなた方も
素敵な
先生だった

そう…
僕の憧れが
そのまま存在
するような

一人一人の
考えが
尊重されて

だれも
抑圧されない

誰かの問題を
みんなの問題として
助け合うことの
できる

そんな人間の
育つ環境で…

心底羨ましく
なると同時に
ここは
僕の希望に
なってくれた

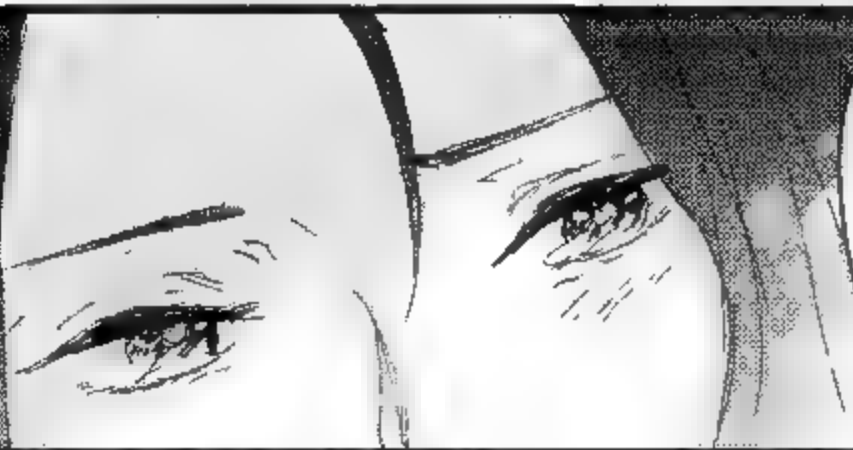
25

うわああ
あああああ
ちょっ
待って
待って
この前は
本当に
ごめん…！
スタ
スタ
スタ
……
……
よく知らな
かったんだ
サーミの
こと…
…日本人だもの
知らなくて
当たり前よ
私が
突然失礼な
態度を
とったの
…あなたが
謝ることじゃ
ないわ…
！

ライヤは素晴らしい先生だね
ええ…
ライヤのことは私もみんなも大好きよ
いつも穏やかで明るくて生徒の傍にいてくれる
みんなライヤの生徒になれて嬉しいって心から思ってるの
…だから君は何も言わないんだね…

……
確かに私はアビの日にサーミの衣装を使われたくないと思ってるけど
先生の気持ちはもちろん
この学校の伝統だってあるわ
サーミは今この学校に私だけ…
これは私一人の問題だもの

わざわざ声をあげるなんて…
それでも君の想いが侵されることは事実だよね
28
僕は…ここでは外国人だし
この学校に来て日も浅いから
こんなこと言っていいか分からないけど…
でも外から見て誰かが我慢しないと成り立たない伝統なら
それがどれだけ望まれていたとしても
やっぱり問題なんじゃないかって思う

短い間かもしれないけど僕が見たこの国は
いつも誰かの問題を助け合って解決していた
僕にとって君たちの姿は理想だ
僕は本当にこの国に憧れているんだ
こんなに素晴らしい場所で
君一人が我慢する必要なんてないはずなんだよ
きっと悪いことにはならないと思う
一度友達にだけでも相談してみたら…
…意外だわ
リクは見かけによらずお節介で図々しいのね
えっ

褒めたのよ!

…そ

そうかなぁ〜〜〜〜〜!?

本当よ?

ええ〜…
全然そうきこえない…

考えてみる
けど…

ライヤはがっかりするわね…

当日まで日がないこともあり

ことは非常に迅速に進んだ

何よりもアビたちはみんな

キーラの気持ちを理解していたようだった

これは当校の伝統です

これまでも少ないながらサーミの生徒はいましたが

彼らも受け入れてくれていました

たとえこれまでがそうだとしても

本来サーミの民族衣装は彼らのものです

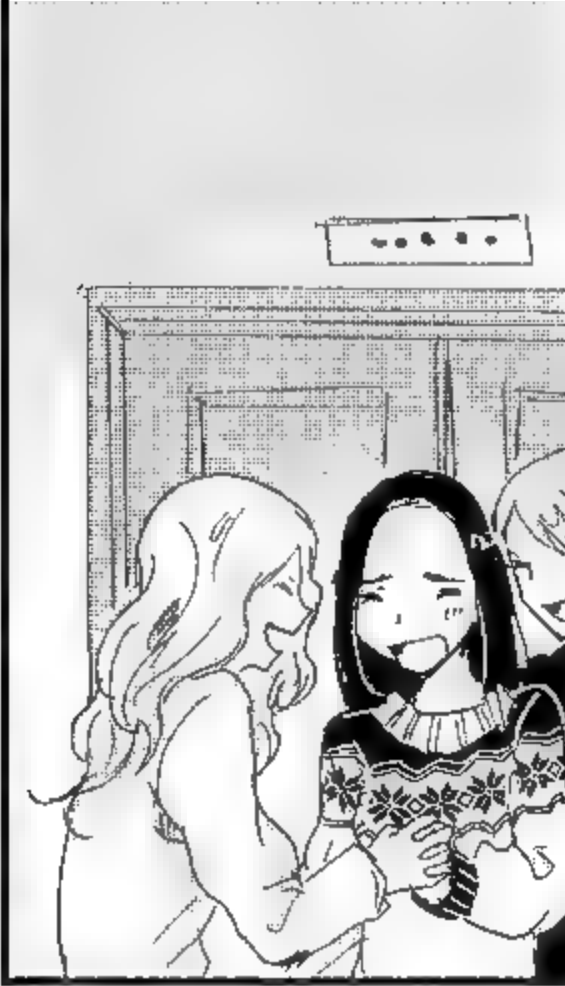
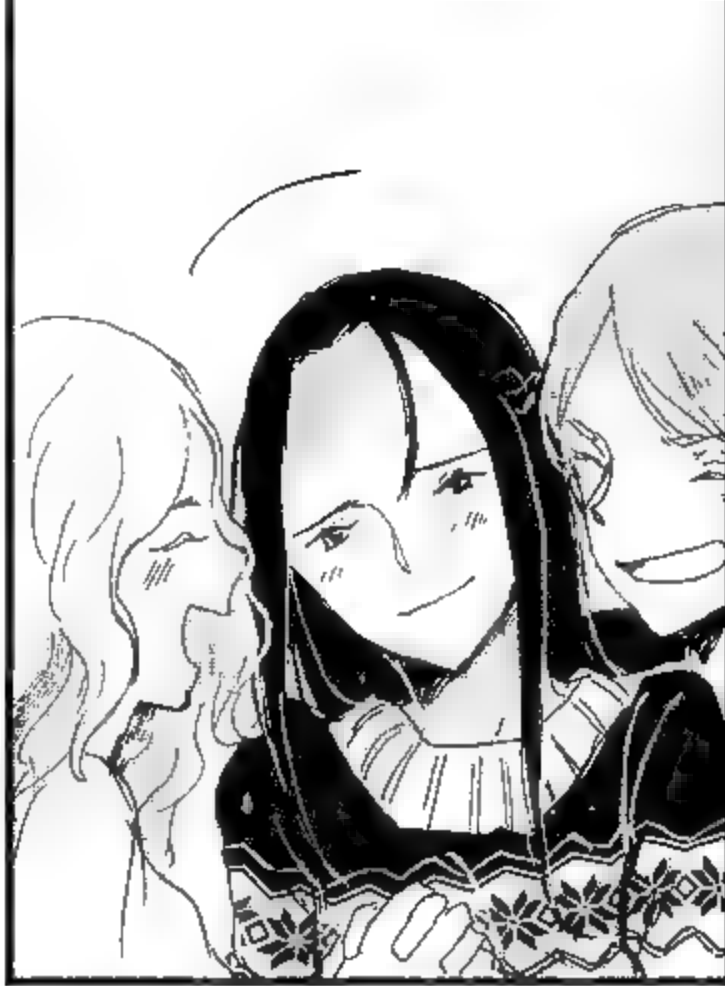
彼らが使用を望まないのであれば

私たちはそれを尊重しなければならないと思います

きゃあっ

……

ライヤ… 実は… 僕が
ライヤ!!
ドッ!

私たち ライヤのことが 本当に大好きよ
だから あなたが衣装を 楽しみに してたのを 知ってたのに…
あなたを がっかりさせて しまった
ごめんなさい…

でも私たち
キーラの気持ちを
尊重するべきだと
思ったの
それで…
……
あなたたちは
素晴らしいわ！
私の無知が
あなたを
苦しめて
しまったのね…
ごめんなさい
私が楽しみに
してたのは
衣装じゃない
あなたたちの
成長した姿
だわ
そして
あなたたちは
私が見てきた
アビたちの中でも
特別に
素晴らしい
アビよ
当日が今から
とても楽しみ！

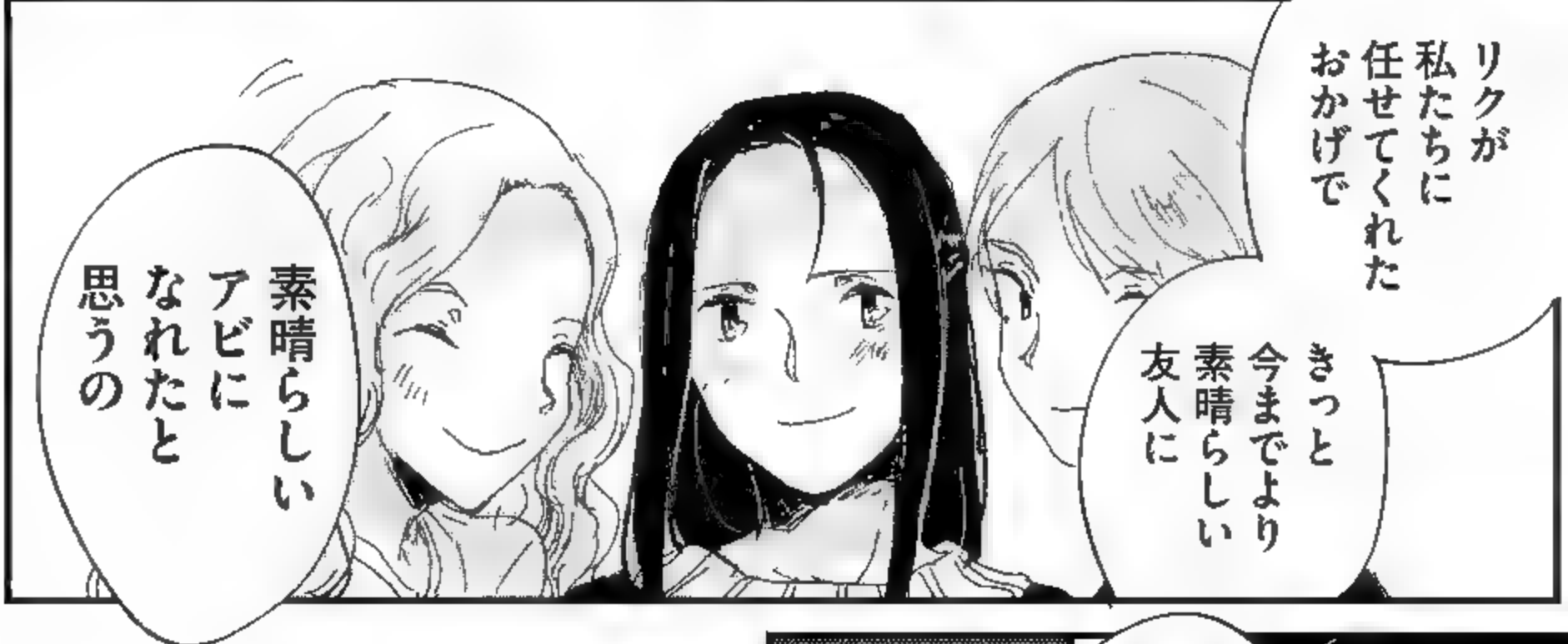
あら…!

そうだ…ライヤ

この件はリクが助けてくれたのよ

えっ!?いや…

僕は相談してみたらどうかと言っただけで特に何も…

それも含めてよ

リクが私たちに任せてくれたおかげで

きっと今までより素晴らしい友人に

素晴らしいアビになれたと思うの

僕は本当に声をかけただけだ

彼女たちに何も教えてなんかいない

彼らを
信じて
見守ること

僕ができるのは
それだけだけど

きっと
それで良い

それが教育…

こっ…
これは…
マウリ先生、失恋か!?
冷静な科学者も
時には
センチメンタルに
のヘンニ先生は
なんと多額の借金を
抱えていた!
面白いわよねぇ
ていうかライヤ可愛いですね
あらありがとう
雪の女王なのよ!
仮装するとは聞いていたけど教員もとは思ってませんでした
私たちもアビをお祝いしなきゃね
あなたも何か…
やっぱ怒らないんだ…

かりぞー
かがむと歩くよ
かわいい…!
在校生諸君!!
この学校という監獄に残り
まだまだ勉強をしなければならない哀れな君たちに…
我々からのプレゼントだ――!!

すごいですねえ!!
ええ!
ライヤ危ないよー!!
一つ一つの教室もすべて巡回して
学校中を完全にジャックしたら最後は…

イッ
パ
ええ〜〜〜〜!!
ああやって アビを学校から 放り投げて 追い出すのよ
ペ〜イッ
ペ〜イッ
はは… ほんとに とんでもない 行事だ!!
リクは とても良い顔で 笑うように なったわね
!

…はい
まだ分からないことも多いけど…
欲しかった答えは見つけられたような気がします
……
ならあなたもたった今から当校のアビの一員ね
えっ
みんな！この人も放り出してちょうだい！
は
ええっ!?
えっ ちょっと
わー
おあああああ
ハアイ リク！
キーラ！

受け身はとったほうがいいわよ
いくよー!!
3
2
1!

どう?

この解放感
最高でしょ！
うん！
青い空、白い雲。過去の僕からの、卒業。
Fin.
『アビの日』へのご意見・ご感想をお待ちしております!!
小森江莉氏の次回作にご期待ください!!